

5

特集1 首の美容

実地臨床における首の美容

上野美律

銀座たるみクリニック 院長

美容医療において顔面に行える治療は多数あるが、首（頸部）に関しては頭を悩まされることが多い。顔面ほど創傷治癒が進まず皮下組織も薄いため、有効な治療が顔面と比較して少ない部位である。

しかし美容医療が一般的に受け入れられるようになり、長期的に顔面の治療を継続される患者が増えてくるにしたがって、顔と首の加齢変化が乖離することになってくるため、患者からの有効な首の治療へのニーズは高いと感じる。

もちろん、私も美容医療に取り組み始めてから20年以上さまざまな治療を経験したが、「これしかない」というほどの決め手になる治療はまだ見つかっていない。しかし今回は執筆にあたり、当院での治療経験を紹介させていただき、治療法を検討していく。

首の加齢に影響する要因

顔同様、多くの要因が組み合わさることによって、首の加齢症状が進行していく。ひとこと「年齢を感じさせる」首、といってもその加齢要因の何が顕著にみられるかによって、治療方法も変わっていく。また、若年層であれば一番気になる症状に対して単独の治療でも良好な経過を得られる場合も多いが、年齢を重ねるほど1つの治療方法で解決することはまずないと考えている。そのため、症例ごとに必要な治療を組み合わせる提案が必須な部位である。

首の加齢に大きく影響する主な要因は、①広頸筋の萎

縮、②アクロコルドンなど隆起病変や色素斑、③顎の皮下脂肪増加、④皮膚全体のたるみやくすみ、⑤深い横ジワであり、患者からの訴えも最も多くきかれる症状であろう。

それぞれに対して必要な治療を選択する必要がある。

各症状に対する治療

広頸筋の萎縮

広頸筋は胸筋筋膜と周辺の皮膚を起始とし、下顎骨下

縁付近の皮膚、口周りの筋膜と皮膚に停止する。萎縮すると下方に広く引かれるため、首の横ジワも深くみせる。また、下顎下縁付近も下方にけん引されるため、フェイスラインの下垂にも影響する。

広頸筋に関しては、マイクロボトックス治療が有効である。注意事項としては、高齢者への投与の際は使用単位数に注意が必要である。口の開閉の際に違和感を訴える場合もある。

アクロコルドン、ほくろなどの皮膚疾患

アクロコルドンは一般皮膚科診療でも、日常で多くの訴えがある症状である。保険診療では剪除や液体窒素療法が適応となり、自費診療では炭酸ガスレーザーや電気メスによる焼灼法が適応となる。

顎の皮下脂肪増加

20年前であれば脂肪吸引による除脂治療が必要であったが、近年では脂肪溶解注射といわれる製剤による簡便な皮下注射での治療も選択できるようになった。FDAに認可されたデオキシコール酸1パーセント配合の製剤もあるが、日本では未承認である。そのため類似した個人輸入製剤を使い分けているのが現状である。デオキシコール酸は、脂肪細胞の細胞膜を破壊して、脂肪細胞を減少させる。配合濃度に依存した効果を認めるが、高濃度になるほど炎症も強くダウンタイムが長くなる。患者が許容できるダウンタイムに応じて製剤を選択する必要がある。

皮膚全体のたるみやくすみ・深い横ジワ

顔の治療を長年継続していると、首との色調や質感の差が気になるようになる。首の皮膚の色調が黄色くくすみ、弾力が低下し、手触りも粗く感じるようになる。

深い横ジワは首を前傾した際に常に負荷がかかる部分のため、若年時から目立つ方もいる。加齢とともに長期的な負荷によってさらに進行する、真皮層の加齢によるものである。

最近では美容医療の基礎研究が進み、エビデンスが解明される治療が増えてきたこと、また、インターネットの発達による医療機器メーカーのマーケティングの進歩により、いくつかの古くからある治療が再度注目されている。

代表的なのは、水光注射や皮内・皮下注射によるメソセラピー、ダーマペンやニードルRF（radio frequency）である。最近ではそれらを包括して、「micro needling therapy (MNT)」というようになった。これらの治療は美容領域ではなく、疾患治療の薬剤投与経路として近年研究が進んでいる¹⁾。より安全に少量でピンポイントの患部に投与するdrug deliveryの手段として注目されている。

また薬剤自体の研究も進んでいるが、吸収率が主成分濃度のみでは確定できず、効果が図れない場合もある²⁾。

首はさまざまな加齢変化が複合する部位であり、顔の皮膚以上に治療の回数がかかる場合が多く、治療効果を出すことが難しい部位である。そのため今でも治療に関しては試行錯誤であり、よりよい治療法を模索中である。

今回は、古い時代の認識と大きく変わり、治療効果の飛躍が著しいと思われるMNTのなかでも、ニードルRFの機器であるPOTENZA、スキンプースター製剤、ヒト臍帯血由来間葉系幹細胞培養上清液を含む製剤を利用した症例を報告する。